

| カリキュラム区分 | | 2カリ | | シラバス区分 | | 学部生 | | |
|--|---|------|----|--------|------|------------------------------|-----|----|
| 科目区分 | 科目コード | 履修時期 | | 開講学科 | 選択区分 | 科目名（上段：和名、下段：英名） | 時間 | 単位 |
| | | 学年 | 学期 | | | | | |
| 専門科目 | 446 | 4年 | 前期 | 臨床検査学科 | 必修 | 臨地実習Ⅲ Clinical Practice Ⅲ | 315 | 7 |
| 担当教員 | | | | | | | | |
| 臨床検査学科全教員 | | | | | | | | |
| 関連するDPキーワード（看護学科） | | | | | | | | |
| | ① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。 | | | | | | | |
| | ② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。 | | | | | | | |
| | ③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。 | | | | | | | |
| | ④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。 | | | | | | | |
| | ⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。 | | | | | | | |
| | ⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。 | | | | | | | |
| | ⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。 | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 関連するDPキーワード（臨床検査学科） | | | | | | | | |
| | ① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。 | | | | | | | |
| | ○ ② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。 | | | | | | | |
| | ○ ③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。 | | | | | | | |
| | ○ ④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。 | | | | | | | |
| | ○ ⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学術的態度を身につけている。 | | | | | | | |
| | ○ ⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。 | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 授業目的 | | | | | | | | |
| <p>学内での講義および実習を通して学んだ知識・技術を基に臨床検査総論、病理組織細胞学、生理機能検査学、臨床化学、臨床血液学、臨床免疫学、臨床微生物学の7科目について、実際に医療の現場で行われている臨床検査技術を習得するとともに、診療側に提供する臨床検査データの意義を理解し、病態解析のアプローチについての意識を身につける。さらに、診療部門との連携やチーム医療を理解するとともに、患者と接する際の心がまえを習得する。</p> | | | | | | | | |
| 到達目標（授業目標） | | | | | | | | |

- ①臨床各科の患者から提出される各種検体の取り扱い方および臨床検査の実際についてを説明できる。
- ②検査結果の判定および報告の実際についてを説明できる。
- ③検査終了後の試料の処理、器具および機器の整備の実際についてを説明できる。
- ④大学内において実習できなかった検査および特殊な検査について説明できる。
- ⑤自動分析機器の作動原理を理解し、取り扱いおよび保守管理について説明できる。
- ⑥患者から得られる臨床検査データが診療側(臨床側)にとっていかに大切であるのかを理解し、臨床検査全体の精度保証についての重要性と秘守義務について説明できる。
- ⑦疾患に関心を持ち、臨床検査データからの病態解析のアプローチの方法について説明できる。
- ⑧患者を中心とした医療を提供することの重要性を認識し、他の医療職種の仕事を理解するとともに専門家としての臨床検査技師の役割と責任を理解が理解でき、そして医療チームの一員であることの自覚と、医療人としての将来の自らあるべき姿を明確にできる能力を身につけることができる。
- ⑨臨床検査部門の組織を知るとともに、臨床各科、輸血部、放射線部、看護部、薬剤部、事務部などの関係について説明できる。
- ⑩医療現場において患者の複雑な心状態を理解し相手にやさしく接することができるように努力する態度を身につけることができる。

授業計画（項目・内容と方法・担当者）

| | |
|------|---|
| 授業概要 | <p>臨床検査総論、病理組織細胞学、生理機能検査学、臨床化学、臨床血液学、臨床免疫学、臨床微生物学の7科目において、実際に医療の現場で行われている臨床検査技術を修得するとともに総合的に臨床検査データの管理や見方について学ぶ。</p> <p>さらに病院における臨床検査技師の役割と責任を知るとともにチーム医療の一員であることの自覚と医療人としての見識を養う。</p> <p>○実習施設 ①愛媛県立中央病院、②愛媛大学医学部附属病院、③国立病院機構四国がんセンター、④松山赤十字病院</p> <p>◎実習内容: ①施設実習前に、学内で臨地実習の技能訓練および技能到達度評価を5日間（30時間相当）実施する。 ②その後、愛媛県内の大規模4病院に別れ、5～7名1組で40日間（360時間相当）の実習を行う。 ③施設での実習後に、3日間（15時間相当）の学内実習を実施する。 ④施設実習後の学内実習では、各グループごとに実施したテーマ実習の理解を深め、知識と経験の共有を図るため、実習最終日に発表会を開催する。臨床検査学科教員全員が発表指導を担当する。</p> |
|------|---|

成績評価方法及び基準

- ・実習の評価項目及び実習記録を基に評価する。（評価項目等の詳細は実習要項に示す）
- ・各領域におけるレポートの提出が一つでも未提出の場合、成績は不可とする。

教科書

| | | | | | | |
|--|----------|--|--|--|--|--|
| 参考図書等 | | | | | | |
| 授業時間外の学習について（授業準備のための指示） | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学内で学んだ知識や技術を正しく展開するために、実習に入る前に、もう一度復習して要点をまとめて理解しておく。 ・実習した内容を理解するために、即日実習ノートを整理し、何を学んだのが自己評価する。また、翌日行う実習の予習をする。 | | | | | | |
| 関連科目 | | | | | | |
| 前科目 | すべての専門科目 | | | | | |
| 後科目 | | | | | | |
| 実務家教員 | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 備考 | | | | | | |